



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110~120周年
標語

共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月一日発行)

2020年3月1日 (日) 第793号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人/ 趙永哲・編集人/ 金柄鎬

印刷所 青丘文化社

四旬節
説教

ペトロの失敗とイエス様の愛

<ルカの福音書22:54~62>



韓承哲 牧師 (神戸東部教会)

今日の本文には、ペトロの失敗と失敗した弟子を暖かい眼差しで見つめているイエス様の姿が記録されています。四旬節の期間、三度イエス様を知らない否認したペテロを最後まで信じ、最後まで愛してくれた主の愛を悟ることによって勝利する信仰生活をしましょう。

今日の本文54~55節を見るとペトロの行動が記録されています。54節の「遠く離れて従った」と55節の「人々の中に混じって腰を下ろした」です。以前この箇所を読んだ時は「遠く離れて」の部分だけに注目しました。遠く離れてついて行っただけだとも思いました。しかし、何回か繰り返して読むうちに新しい行動が目にとまりました。55節の「人々の中に混じって腰を下ろした」という部分です。

これを見た瞬間、ペトロはとても勇気のある人だと思ふようになりました。ゲッセマネでイエス様が捕らわれた時、ほかの弟子は皆逃げてしまいました。しかし、ペトロとヨハネはイエス様について行き、その中でペトロだけが大祭司の家まで行き、人々の中に混じって腰を下ろしました。勇気のある人です。しかし、そんなペトロが今日の本文では失敗しています。

では、ペトロはどんな失敗をしたのでしょうか？

56~60節を見ると、勇気のあるペテロが三度も「イエス様を知らない」と言います。マタイの福音書では三度目に呪いをかけて誓ったとあります。この時ペトロは何を思ったのでしょうか？ 雰囲気は恐かったと思います。もう一方では良心が咎められたでしょう。恐さと良心の咎めの中で3度イエス様を知らないと言います。

では、ペトロの失敗の原因は何でしょうか？

今日の本文を通して4つの理由が考えられます。1番目は、人の視線と主の視線の間で、ペトロは人の視線を選びます。2番目は、「この瞬間だけこの危機だけ逃れれば何とかなる」ペトロは瞬間を選びます。3番目は、ペトロは自分だけは、絶対に大丈夫だと過信して崩れます。4番目は、「主を知らないと言えば自分は安全になる」、自分を守る事と義の行動の中で身の安全を選びます。

私たちがいつも望みと責任の間で悩みます。望みはやりたいう事、責任はやるべき事です。主に喜ばれる道を選ぶか？ 人の視線を気にして主が喜ばれる道を諦めるか？ この悩みは一

瞬です。その時、主に喜ばれる道を選べば神の祝福があり別の道に導かれます。最悪の状況でも最善の選択、神を掴むと最悪の状況から抜け出す事が出来ます。これが私たちクリスチャンに与えられた祝福です。それができなかったため、ペトロは失敗しました。

では、失敗したペトロをイエス様はどうされたのでしょうか？

恵みの御言葉が61~62節にあります。ペトロが「知らない」と否定する場面は、四つの福音書に全部出ています。しかし、ルカの福音書だけに書かれている部分があります。61節の「主は振り向いてペトロを見つめられた」と言う部分です。私はこの部分を読んだ時、とても感動しました。失敗したペトロを主は振り向き見つめられます。時には、多くの言葉より、表情がものを言う場合があります。主は何も言わず何もせずに見つめられています。どんな視線でしょうか？

鶏の鳴いた時、主の視線を見て、ペトロは外に出て激しく泣きました。その涙は、悔い改めの涙であり、感謝の涙でした。主は何も言わず、ただ見つめます。「あなたを信じる。一度失敗したけれど、私を愛していることを信じる。以前、死ぬ覚悟ができていたと言った誓い、それは嘘ではない事を信じる」。

この時イエス様も耐え難い状況でした。イエス様は徹底的に裏切られました。イスカリオテのユダが裏切りました。宗教指導者や律法学者たちがイエス様を殺そうとしました。パンを食べた人々、癒された人々、エルサレムに入る時ホザナを歌い歓迎したイエス様に従った多くの群れ、彼らは誰一人いません。弟子たちは皆逃げてしまいました。信頼していたペトロも知らない三度裏切ります。こんな酷い状況の中でも、主は弟子を暖かい眼差しで見つめています。愛し、信頼すれば、人が変わります。その愛を知ったペトロが書いた手紙がペトロの手紙IとIIです。ペテロがこの出来事を思い出しながら書いた御言葉があるか探して見ました。一カ所ありました。Iペトロの手紙4章8節です。「何よりもまず、心を込めて愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。」

私達も失敗するときがあります。その日のペテロが私達たちかもしれません。しかし、ペテロを受け入れてくださった主の愛、私達を受け入れてくださる主の愛を覚え、どんな失敗があっても、受け入れて下さる主の愛のために、再び立ち上がって走ろうではありませんか。

公告《総会奨学生 募集案内》

総会神学生として各地方会にて認定され、1年を経過した者が申請できます。書類は総会事務局にお問い合わせください。

- 募集人員：3名
- 支給金額：年額200,000円/1人

- 支給期間：1年間 (受給者は、継続して新たな申請必要)
- 必要書類：①奨学金申請書 ②在学証明書 ③成績証明書 ④履歴書 ⑤堂会長推薦書 ⑥総会神学生認定書 (各地方会試取部) ⑦各地方会長承認書
- 書類提出先：総会事務局
- 締め切り：2020年4月30日必着

関西地方会

堺教会に金忠洛牧師委任 大阪教会で副牧師として5年間奉仕



さる2月9日(主日)、関西地方会堺教会において金忠洛牧師の委任式が臨時堂会長趙永哲牧師の司会のもとで盛大に行われた。

礼拝説教は、韓国の後援教会の仁川大光教会の朴真徹牧師が「主が建てられた教会」(マタイ16:18~19)という題目で行った。

引き続き関西地方会長林明基牧師の司式で行われた牧師委任式は、誓約と祈禱、宣布、勸勉、祝辞などが行われ、寒い天気にもかかわらず関西地方会と韓国の後援教会から150名余りが参席した。

この度、関西地方会から堺教会の担任牧師として委任された金忠洛牧師は1974年生まれ、2010年大韓イエス教長老会(統合)の牧師接手を受け、2013年に日本宣教師として派遣され、大阪教会において副牧師として誠実に職分を全うした。これからの堺教会の復興のための貴重な役割に大きく期待される。家族は夫人(朴首勲牧師)と1男がいる。

外キ協

全国協議会と全国集会 「歴史に向き合う移民社会」目指し

1月30~31日、KCCJ名古屋教会で第34回全国協議会を開催した。主催は「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会(外キ協)」。日本の各教派・団体および各地外キ連、韓国NCCの代表者、計51人が参加した(うちKCCJ参加者は12人)。

主題「20世紀歴史課題と21世紀移民社会の宣教課題を考える」のもと、金明均牧師(名古屋)の開会説教、佐藤信行(RAIK)の基調報告、カトリック埼玉教区のマリア・ラン修道士「ベトナム人支援活動」、在日三世の弁護士・裴明玉「朝鮮学校支援裁判」、そして北海道/神奈川/関西/広島/山口・九州外キ連からの報告と発題がなされた。翌日の聖書研究は後藤香織・日本聖公会司祭、そして朴永楽・韓国NCC幹事の発題を受けて、2020年活動計画について協議した。

1月31日夜、引き続き第34回全国キリスト者集会を開催し、名古屋・中部地域のキリスト者70人が参加した。洪澤一郎・聖公会中部教区主教のメッセージのあと、「隔ての壁をとりのぞこう~生きづらさから新たな希望へ」と題して、ネストール・プノさんがフィリピンの子どもの居場所となっている「国際子ども学校」について、徳弘浩隆牧師(日本福音ルーテル岐阜教会)がブラジル人など移民支援について、また李正子さん(KCCJ中部女性会)が在日三世としての率直な思いを語ってくれた。

1980年代、KCCJの指紋拒否の闘いから生まれた外キ協は、日本の諸教会による画期的なエキュメニカル運動として34年間続けられてきた。ところが今、人権政策も移民政策もないまま外国人労働力の導入が進められると共に、歴史責任を不問に付して自国中心主義に走る国家を前にして、外キ協は新たな課題を与えられている。すなわち「歴史に向き合う移民社会」の実現である。それは21世紀日本社会の課題であり、日本にある諸教会すべての宣教課題である。

(報告:佐藤信行)



関東地方会

諸職研修会開催 「十字架を通して一つになる」主題で 梁榮友牧師が講演



2020年2月16日(主日)午後4時より東京希望キリスト教会において、関東地方会の各教会から約100人の諸職たちが集まり、2020年関東地方会連合諸職研修会を開催した。

今回は武庫川教会の梁榮友牧師が、エペソ人への手紙2:13~22の「十字架を通して一つになる」という題目で講演を行った。各教会の諸職の使命を果たすために、み言葉を聞き共に心を合わせて熱く祈りを捧げた。

研修会の後には希望キリスト教会が夕食を用意し、霊肉共に豊かに満たされる時間を過ごした。この研修会のためにご苦勞なされた希望キリスト教会の皆さんに心から感謝する。

(報告:李惠淑牧師)

関東女性会

「一日研修会」を開催 姜恩恵宣教師を講師に講演会

関東地方教会女性連合会の「一日研修会」が2月11日(火)、東京教会で開催され、各教会の女性会から80名余りが参加した。

第1部の開催礼拝は朴英遠会長の司会のもと、「信仰が深まっていく祝福」(マタイ1:1~17)という題目で郭恩珠牧師が説教を行った。

聖書研究1は金恵珍副会長の司会、梁靈芝名誉執事による証の後、拒絶の治療、女性の召しと望み(ルカ10:41~42)の題目で日本宣教師である姜恩恵牧師の講演が行われた。

昼は弁当が準備され、東京教会女性会から美味しい漬物と果物が提供された。東京教会の様々な問題の中で研修会の場が提供されたことに、参加者の方々から感謝と感動の感想が寄せられた。

午後の聖書研究2では、姜恩恵牧師による「許しの十字架を見上げて見よ」(マタイ18:21~35)の題目でより深い祈りの重要性が強調された。

最後に参加者全員が心一つにして執り成しの祈りを行った。全ての感謝と栄光を捧げ恵みが溢れる一日研修会となった。

(報告:朴英遠会長)



総会手帳修正

西部地方会の水鳥教会の臨時堂会長を、韓澤柱牧師から尹鐘憲に牧師に修正致します。

東京教会

最高裁が上告棄却 東京教会金海奎氏の地位不存在確定

最高裁第1小法廷（森田高弘裁判長）は2月27日付けで、東京教会の代表役員の地位を争った裁判の金海奎氏（62）の上告を棄却する決定をした。これにより、総会の治理に従わず代表役員（担任牧師）の地位に留まった金海奎氏に対する、原告信徒らによる2016年から始まった裁判が終結し、金海奎氏が代表役員（担任牧師）ではないことが確定することになる。

発端となった2013年1月の共同議会議事から7年以上の時間が過ぎた。これから教会の正常化に向け、地方会から派遣する臨時堂会長を中心に教会運営がなされるが、まだまだ多くの課題や難局が予想される。また、傷ついた多くの信徒のため引続きの祈りを願う。

『福音讚美』募集!

各教会・各機関で歌われている讚美（『新韓日讚頌歌』、『子どもさんびか』以外）を整理・翻訳して提供します。このための曲を募集しています。礼拝の会衆讚美を豊かにする、多様な讚美をお寄せください。曲数に上限はありません。できればデータでお送りください。日本語だけ、韓国語だけのものもOKです。

締切：5月31日(火)

送付先：hcc4080@hanmail.net(崔亨喆)

toyonaka1kccj@hotmail.com(朴栄子)

Fax：06-6718-0988(KCC)

讚頌歌委員会委員長 崔亨喆(080-3779-6774)

訪問手記

朝鮮キリスト教連盟訪問記 <5>

大阪教会 鄭然元 牧師

7. 板門店を訪問し

平壤訪問3日目、2019年7月30日（火）訪問団は緊張と期待感を胸に抱きながら、南北の分断の象徴である板門店を訪問することにした。分断の中心であり、同民族が戦車や大砲武器を持って兄弟の胸に迫った韓半島6.25動乱が始まり、3年間の戦争の休戦を論議した所、戦争の痛みを最も深く感じられる板門店を訪問する事となった。夏の降雨量が低く故に心配が多い農夫達には恵みの雨は訪問団一同が平壤に到着した翌日から少しずつ降り注いだ。この日は朝から酷く雨が降っていた。

平壤から開城まで170Kmの距離で往復2車線の高速道路はよく整備されていた。しかしこれもしばらくすると、雨が酷く降り注ぎ道路の状況が把握出来ない運転手は損傷ある道路を走り車は激しく上下に揺れた。窓の外の風景はどの国にも見られる農村とそう変わらなかったが田んぼや畑には稲やトウモロコシが多かった。遠くには高い山々が山脈を連ね開城までは大々的に広く平野が広がっていた。走っていた車が「沙里院市」を過ぎて高速道路の休憩所に止まった。それぞれ違う宿に滞在していた日本NCCの訪問団ともここで再開する事が出来た。お互いに嬉しい顔を見ながら、人はこのように出会って情を分かち合いながら生きる存在であると思った。

開城市を通過するや否や板門店が目の前にあった。軍事境界線に近づきながら警備が厳重である事が感じられた。検問所で代表団全員が降ろされ、案内員は手続きのための準備をしていた。高速道路の休憩所においても同じように中国の観光客が数十台の大型バスに乗って来ていた。人々はこの場所を見てどう思うか?と一人で考えてみた。私たちが案内する軍人は乗り合の車の前の座席にのり道案内をしていた。最初に訪問する所は停戦協定調印場であった。1950年6月25日午前4時に始った戦争の締めくくりは誰の勝利でもない休戦である。朝鮮人民軍代表は朝鮮人民軍大將南日、UN軍代表團首席代表である米国陸軍中將ウィリアムK.ハリソン (William Kelly Harrison Jr.) によって1953年7月27日22時に休戦協定を結んだ。今日までの67年と言う長い年月においてこの状態が続いている。調印式にて使用された広い会議場には休戦当時の写真と南北関係の多くの資料が展示されていた。再び車に乗って板門閣に移動した。私たちは今まで南側から見る「板



来たから見た板門店

門閣」が見慣れていた。しかしこの日は正反対に「板門閣」から南側の施設を見ている。南北分界線の上に建てられた青い色の連絡事務所の建物3棟や「平和の家」が目に入る。2018年4月27日第3次南北頂上会談、大韓民国大統領の文在寅と朝鮮民主主義人民共和国国務委員長の金正恩が会談をした所であり、私たち訪問団が北を訪問する1ヵ月前の2019年6月30日、板門店に到着した米国トランプ大統領が金正恩委員長と握手を分かち合った後、現役米国大統領として初めて北の地を訪れたところであった。そんな事を思い巡らせながら「板門閣」の案内員の了承を得て祈りの時を持った。2層のベランダで南側の地を見上げながら日本教会代表の飯塚拓也牧師の祈りに続いて金鐘賢総会長が南北の平和統一の為に切なる祈りをされた。来賓芳名録に「祖国の統一と平和の為に切実に祈ります。」短文ではあるがそれぞれの心に浮かんだ一言を書いて一人ずつ署名した。板門店を見まわり平壤に帰る車の中で案内員は私に「牧師先生、板門閣で祈られる時、私たち同胞方が涙されるのは理解しますが、日本人方はなぜ泣くのですか?」その質問に私はしばらく言葉が出なかった。日本教会代表団が書いた文を写真に収めた事を思い出した。「一日も早く南北が一つになる事を願います。同じ民族が塞がれている事を超え自由に行き交い共に泣き笑う日が来る事を願いこ板門店が未来と平和のシンボルになる事を願い全ての共和国の人々に感謝を込めて」

私たち民族の願いである統一を念願し、北から南を観ながら戦争で犠牲になった人々や離散家族の辛さや寂しさを覚え、平和なる統一の日を期待しながら板門店を後にした。

2020年/第34回「外国人住民基本法」の制定を求める 全国キリスト者集会宣言

「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会」(「外キ協」)は、2020年1月30日から31日にかけて第34回全国協議会を在日大韓基督教会名古屋教会で開催しました。「20世紀歴史課題と21世紀移民社会の宣教課題を考える」という主題のもとに、各地外キ連および外キ協加盟各教派・団体、韓国NCCの代表者ら51名が参加し、全ての人の人権と尊厳が守られる社会の実現のための課題とこれからの取り組みについて協議しました。

「出入国管理及び難民認定法」(「入管法」)が、2018年に改定され2019年から施行されました。しかし、技能実習制度の根本矛盾を残したままの制度改定によっては、政府の意図する外国人受け入れがすすまなかったように、この制度は抜本的な見直しを必要としています。協議会では、この制度の矛盾により、在日外国人がますます搾取・管理・排除される対象となっている現状や、日本においてヘイトスピーチ・ヘイトクライムが猛威を振っている現状を直視しました。しかしこれに抗う自治体の取り組みがあることも聞きました。またカトリックさいたま教区での在日ベトナム人司牧の取り組みの中で明らかとなってきた移住労働者への人権侵害の実態と生活支援の課題について、朝鮮高校・朝鮮幼稚園の無償化除外をはじめとする外国ルーツの子どもたちの教育・保育に対する深刻な制度的差別について学びました。さらに、外国人住民との共生社会の実現を求める各地での取り組みや、福島移住女性支援ネットワークとACT Japan Forumの報告を通して、外国人被災者への取り組みの必要性を確認しました。聖書からの問いかけとして、社会の中で周辺化され排除された人々と共に命の糧を分かち合われたキリストの歩みに従うことが教会の希望であり、使命であると聞き、東北アジアの和解と平和を求める韓国教会の実践とこれからの課題について共有し、国家とは異なる立場でキリスト教会が東アジアの平和のために信頼関係を構築してきた取り組みの歴史と、その重要性を分かち合いました。

改定入管法は、在日外国人を短期的労働力として繰り返し使い捨てることを目的としています。この制度の下で様々な労働問題が起こっており、劣悪な労働環境のため既に多くの命が失われ、数多くの人権侵害が発生しているのが現状です。もし人権と尊厳を奪われた人々の訴えを無かったことにするならば、またヘイトスピーチ・ヘイトクライムを看過・放置するならば、やがて必ず社会全体が偏見と憎悪によって崩壊へと向かうことを私たちは歴史から学んでいます。

今、日本社会では政治・教育・経済など様々な領域で、過去の侵略の歴史を否定する流れが作られています。しかし、命と尊厳を踏みにじり抑圧した植民地支配の歴史と向き合わなければ、今なお日本社会を深く蝕む人種・性・民族による様々な差別と対決し乗り越えることは不可能です。

未来に向かって全ての人の命と尊厳そして人権が守られる多民族・多文化共生社会を実現してゆくためには、侵略戦争をひきおこした過去の歴史に真摯に向き合いその過ちを明らかにすること、そして外国人を地域に生きる一人の人間として尊重し、住民としての生活を支え、差別を明確に禁止し、それぞれの文化を生かしあう制度を整えること、その双方の取り組みが必要であると私たちは確信しています。

多民族・多文化共生社会の実現のために私たちは、日本・韓国・在日教会の共同作業を通して、歴史に向き合い、真実と和解に向けた対話を進めてゆきます。さらに日本国内において豊かな多様性を実際に共有する機会を持つとともに、地方自治体に対して人種差別撤廃基本条例の制定などを働きかけてゆきます。国に対してヘイトスピーチ解消法の実効化と「外国人住民基本法」ならびに「人種差別撤廃基本法」の制定を求める国会請願署名は、今年も6400筆を越えました。今後も私たちは、さまざまな取り組みを続けていきます。

イエス・キリストは十字架によって私たちの間の隔ての壁を取り壊し、和解と平和とを生きる新しい命の在り方を私たちに示されました。全ての人は、このキリストの平和へと招かれています。私たちもまたこの社会を分断する隔ての壁を取り壊し、差別と闘うエキュメニカル・ネットワークを作るために、世界のキリスト教会、また多文化・多民族共生社会の実現に取り組むNGO・地域の人々との協働を積極的に進めてゆきます。

私たちは今日、在日大韓基督教会名古屋教会において「第34回『外国人住民基本法』の制定を求める全国キリスト者集会」を開催し、多様性の中で共に生きる喜びと恵みを分かち合いました。この地上にキリストの平和を実現することを、未来に向かう福音宣教の使命として歩み続けることを私たちは決意します。

2020年1月31日

第34回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者集会 参加者一同
外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会

韓日対照聖書販売



各ページ左に韓国語(改革改版)、右に日本語(新共同訳)が掲載されています。

- A5版変型・1772ページ
- 価格：3,000円(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格：2,500円(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ